

平成25 (2013)年度
熊本大学大学院法曹養成研究科

第2期募集 (小論文試験問題)

試験時間 120分

頁・・・ 1～8

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
2. 試験開始後ただちに、問題用紙(この表紙を含めて5枚)、解答用紙(5枚)、下書き用紙(5枚) が、揃っていることを確認してください。
3. 解答用紙のすべて(5枚)に受験番号を記入してください。なお、氏名は記入しないでください。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入してください。解答用紙のホッチキスは、外さないでください。
5. 問題の内容に関する質問には応じません。
6. 配付された解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
7. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰ってください。

課題文を読み、設問に答えなさい。なお、いずれの問題も法的知識を問うものではありません。

問題 1 課題文1 において、著者はなぜ「戦争」を「希望の光」と表現したのか(問題用紙6頁、最後の行)。その理由を500字以上800字以内で述べなさい。

問題 2 課題文2は、課題文1に対する「応答」として掲載された論説のうちの1つである。課題文2に対して、課題文1の著者からどのような反論がなされうるか、300字以上500字以内で述べなさい。

問題 3 300字以上600字以内で課題文1に自分なりに「応答」しなさい。

【課題文1】 (この部分につきましては、著作権により、公開できません。)

(出典: 赤木智弘『丸山眞男』をひっぱたきたい 31歳フリーター。希望は、戦争。』論座2007年1月号53頁～59頁。原文縦書き。)

【課題文2】 (この部分につきましては、著作権により、公開できません。)

(出典: 福島みずほ「フリーターこそが戦争へ行かされる」論座2007年4月号90、91頁。原文縦書き。)